

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

平成 30 年 8 月 22 日
理事長 清野 智

**釜石^{うのすまい}鵜住居復興スタジアムのオープニングイベントにあわせて、
在京の海外メディアを岩手県に招請しました！**

- いよいよ 1 年後に迫ったラグビーワールドカップ 2019 (RWC2019) に向け、東日本大震災の復興の象徴となる釜石鵜住居復興スタジアムのオープニングイベントが 8 月 19 日 (日) に行われました。
- 日本政府観光局 (JNTO) は、これを機に RWC2019 開催都市の釜石市や周辺の観光の魅力在海外へ発信すべく、8 月 17 日 (金) ~8 月 19 日 (日)、オープニングイベントを含む 3 日間に亘り在京の海外メディア招請を実施しました。
- 本招請では、釜石鉱山や牡蠣養殖場などの見学、漁船での尾崎半島へのツアー (尾崎神社の参拝、浜焼き、ビーチクリーン体験、釜石大観音の見学) をはじめ、震災・復興にまつわる市民へのインタビュー、オープニングイベントへの参加といった内容で巡っていただきました。
- 参加メディアからは「自分たちでは思いつかない旅のアイデアやコンテンツが満載だった」、地元釜石市の方からも「このような機会が増えると地方が元気になるので嬉しい」といった声を頂きました。

JNTO は、RWC2019 と東京 2020 オリンピック・パラリンピックという、日本が世界から注目を集めるタイミングを契機に訪日インバウンド旅行をさらに盛り上げるべく、本年 2 月に専門部署を設置し、取り組みを強化しています。特に、アジア初の開催となる RWC2019 は、日本国内 12 会場で開催され、公認チームキャンプ地は全国 52 箇所を上るなど、地方の魅力を大きく PR して旅行先としての認知度を高める絶好のチャンスです。

今回、JNTO は釜石鵜住居復興スタジアムのオープンにあわせて、在京の海外メディアを釜石へ招請し、釜石の観光魅力を体感していただくと同時に、釜石市の旅館の女将や、校長先生や生徒へのインタビュー時間を設け、市民との交流も行うなど、大会に向けて盛り上がる釜石の町や市民、震災後の復興の様子をメディアの皆さまにご覧いただきました。

特に、尾崎半島での神社参拝、浜焼き、そしてビーチクリーンの体験は、地元ならではの食の魅力に加えて日本人の自然を大切にす文化の体験につながりました。また、牡蠣の養殖場は、かつてフランスの牡蠣が絶滅しかけた時、そして 2011 年の震災で三陸産の牡蠣が打撃を受けた時に互いに寄贈し助け合ったという、両国の深い交流の象徴であり、フランスのメディアから印象的だったという声が上がりました。

本招請には、英ガーディアン紙やロイター通信、仏 AFP 通信をはじめ、ラグビーの人気の高い英国、フランスを中心としたメディア 9 社が参加しました。今後、各国のメディアを通じた情報発信により、訪日意欲のさらなる喚起を目指します。

JNTO では今後も、地域の皆さまと連携しながら海外へのプロモーションを強化し、大会期間中だけでなくその後も続く、地方への誘客や地域の活性化に貢献できるよう取り組んでまいります。



(左)釜石鵜住居復興スタジアム取材の様子
(右)釜石東中学校で復興や防災に関する話を聞く
メディア

【お問い合わせ先】

ラグビー・オリパラ戦略推進室 清水・達賀
TEL : 03-6691-3893